編集後記

『ジェンダー研究』第22号が無事刊行された。リニューアルから2年目となる今号では、国内外から多くの論文や書評が寄せられ、厳正な審査のもと採択された特集論文4本と投稿論文5本が掲載されることとなった。

私が同大大学院生だった当時、まだ学内限定の年報だった本誌に論文を投稿したことがある。戻ってきた査読コメントはぐうの音も出ないほど「厳しい」ものであったが、どれもその後の研究にとって示唆に富むものばかりだった。本誌に掲載された自分の論文を目にしたとき、ジェンダー研究者としてのスタートラインに立てたようでとても誇らしかったことを思い出す。それから約10年、今度は編集事務局という立場から本誌の刊行に携わることになったことを感慨深く思う。

一身上の都合で刊行前に退職することとなったが、在職中には多くの方々に力添えいただいた。編集実務では、申琪榮編集委員長、仙波由加里氏、和田容子氏と多くの時間を共にし、慣れない業務に右往左往する私をいつも温かくサポートしてくださった。また、学術雑誌の編集に長けている平野恵子氏が本誌の業務を快く引き継いでいただいた。本誌が無事刊行できたのも平野氏のおかげである。本誌の広報や発送等ではIGSのスタッフの方々のおかげなくしては業務を遂行できなかっただろう。Jan Bardsley 招聘教授と Phil Bardsley 氏には本誌の英文校閲で大変お世話になった。執筆者・査読者の方々にはタイトなスケジュールにも関わらず、真摯に対応していただいた。

最後に、本誌の刊行に関わってくださったすべての方々にお礼を申し上げたい。本誌が国内外のジェンダー研究者にとって、新たななる思考や問題意識に繋がる扉を開くものとなったのであれば、甚幸の極みである。

(日本学術振興会特別研究員 (RPD) 大野聖良)

無事に刊行され、大変安堵している。今号では、特集論文4本および特別寄稿2本が「ジェンダーと安全保障」を論じている。編集作業の過程で繰り返し読むことになるのだが、いずれも素晴らしい論考で、自身の初仕事でこれに取り組めたことを大変光栄に思っている。また、投稿論文は5本が掲載された。お忙しい中、多くの査読者にご協力いただいたことに、心より御礼申し上げたい。そして、特集、特別寄稿、投稿論文の日本語校閲を、タイトなスケジュールでありながらも丁寧にみてくださった、宮内裕美、長田孝子の両氏にも感謝申し上げます。

個人的なことを少し書くとすれば、5月1日付で大野さんより事務局を引き継いだ私が『ジェンダー研究』の編集に携わるのは2度目である。2013、14年度の『ジェンダー研究』編集事務局を担当していたのだが、4年ぶりに「ホーム」に戻ってきて、『ジェンダー研究』そのものが刷新され、投稿数が激増し、編集体制も充実していることに嬉しい驚きを覚えた。新生『ジェンダー研究』のシンボルでもある素敵なお表紙は、今回も塩飽晴海さんにご担当いただき、それを能登印刷さんのお力で具現化していただいた。加えて、本誌編集、発送の過

程で、IGSの梅田さん、滝さんにもいつもながら大変お世話になっていることを記して感謝したい。次号の特集も大変魅力的なテーマが予定されている。乞ご期待！

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任リサーチ・フェロー 平野恵子)

『ジェンダー研究』22号が発行され、安堵すると同時にとてもうれしく思っている。21号に比べ、ページ数も大幅に増加し、私の担当した書評も昨年の11本から15本へと掲載本数が増やされた。そのため、22号の作業に入る前には、実は、前号以上に大変なことになるのではないかと多少の不安もあった。しかし、編集事務局長の大野聖良さん、そして途中から事務局長を引き継いだ平野恵子さんのお二人が、とても効率よく作業を指揮し統括して下さり、書評の校閲や誌面のデザインでは和田さんにもおおいに助けられて、とてもいい雰囲気の中で編集作業をすすめることができた。途中、思いもしないような問題が発生したこともあったが、申瑛榮編集委員長や事務局長が適切にかつ迅速に対処してくださり、2度目の『ジェンダー研究』の編集業務に、穏やかに取り組めた気がする。

書評では、お茶の水女子大学の学内外の様々な分野を専門とされる先生方や研究者の方々に、興味深い著書や評者の方々をご紹介いただき、本当に色々な意味で助けていただいた。そして、お忙しい中、書評を快く受けてくださり、今話題のジェンダー関連の著書について、貴重な意見や示唆を寄せてくださった土野瑞穂さん、Mire Koikareさん、山本沙希さん、中村雅子さん、Annette Schad-Seifertさん、金美珍さん、落合絵美さん、濱田江里子さん、味岡京子さん、吉良知子さん、Maki Isakaさん、嶽本新奈さん、佐藤齊華さん、三部倫子さん、Nadje Al-Aliさんには、本当に心から感謝している。また、今号では英語での書評も掲載させてもらったが、その英語原稿の校閲では、昨年から、ジェンダー研究所に特別招聘教授として滞在しておられるJan Bardsley先生と、そのパートナーのPhil Bardsley先生にたいへん助けていただいた。このお二人にも感謝の意を表したい。

『ジェンダー研究』22号を多くの方のお読みいただき、掲載された論文や書評が、読者の研究の中で何かの形で活かされるなら、編集作業に携わった者として、とてもうれしく、また、編集業務に携われたことを誇りに思う。

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任リサーチ・フェロー 仙波由加里)

前号に引き続き編集実務スタッフとして、編集スケジュール進行の補佐や書評の校正などを担当させていただきました。

現在から未来へ、万難を排してとにかく刊行し続ける。その営々とした積み重ねが、新生『ジェンダー研究』の新たな歴史と伝統を築くのだという思いで、まことに微力ではありますがお手伝いさせていただきました。その機会を与えて下さいました申編集長、特任リサーチ・フェローの大野さん、平野さん、仙波さんに、心より感謝申し上げます。

(お茶の水女子大学ジェンダー研究所 アカデミック・アシスタント 和田容子)

『ジェンダー研究』編集方針

- 1 『ジェンダー研究』（以下、本誌）は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
- 2 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
- 3 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
- 4 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
- 5 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
- 6 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

『ジェンダー研究』投稿規定

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する者とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。なお、この規程に違反した場合、新たな投稿を受け付けないなど、しかるべき措置をとる。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は、
日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて20000字以内
英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて8500ワード以内
定められた字数などの制限を超えた場合、形式において甚だしく不備がある場合には、受理できない。
- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
6-1表紙。論文タイトル（副題も含む）と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。（タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。）

6-2 日本語要旨。400字以内。

6-3 英語要旨。200ワード以内。ネイティブチェック済のもの。

6-4 キーワード。日本語・英語ともに5語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。

- 7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

- 8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。
- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める<『ジェンダー研究』執筆要項>に従う。英語の投稿論文は *Style Sheet for Journal of Gender Studies* とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。ただし、本投稿規定・執筆要項や本誌の趣旨に合致しない原稿、また学術的論文としての水準を著しく達していないと判断された場合、審査の対象外とする場合もある。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、修正対応表をつけて、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則2回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

(2017年10月27日改訂)

『ジェンダー研究』執筆要綱

<http://www2.igs.ocha.ac.jp/wp-content/uploads/2018/11/instructionsjp.pdf>